

令和3年 2月1日

各 位

新潟大学工学部工学科
協創経営プログラム
教授 尾田 雅文

新潟大学工学部協創経営プログラム「課題解決インターンシップ」へのご支援について（依頼）

各位におかれましては、日頃より、協創経営プログラムに格別のご配慮・ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

本プログラムでは、当プログラム3、4年次学生を対象として、民間企業・団体等のものづくり・ことづくりの現場で課題解決に携わることを通じ“現場感覚”に優れた若手人材を育成することを目的とし、「課題解決インターンシップ」の授業を実施しております。この授業は、学生の資質向上のみならず、課題解決のプロセスや成果が、地域経済の活性化・振興の一助になるものと考えております。

つきましては、「課題解決インターンシップ」の実施に当たり、各位の同インターンシップに対するご意向を別紙1 調査票により伺いたく、令和3年3月31日（水）までに、E-Mail または FAX により下記担当へご回答くださるようお願い申し上げます。

なお、受入組織と学生の双方にとって、より実りのあるインターンシップとなるよう、昨年度までとマッチングのプロセスを一部改良いたします。つきましては、別紙2 に示しますように、WEB 会議システムを利用して説明会を開催いたします。参加ご希望の方におかれましては、事前に参加登録くださいますようお願い申し上げます。

また、アンケートご回答の際は、別紙3 をご参照下さい。なお、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく下記担当までご一報いただければ幸いです。

【お問合せ・アンケート送り先】

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050
新潟大学工学部工学科 協創経営プログラム

教授 尾田 雅文

Tel：025-262-7555

E-mail：oda@ccr.niigata-u.ac.jp

FAX：025-262-7287（協創経営プログラム事務室）

URL：http://www.eng.niigata-u.ac.jp/~emgt

新潟大学工学部協創経営プログラム

「令和 3 年度 課題解決インターンシップ」受入れに関する調査票

ご多用中、恐れ入りますが、令和 3 年 3 月 31 日（水）までに、ご記入の上、以下返信先にご送付ください。

返信先： 〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050
 新潟大学工学部工学科 協創経営プログラム 尾田宛
 E-mail: oda@ccr.niigata-u.ac.jp
 FAX: 025-262-7287（協創経営プログラム事務室）

ご回答日：令和 3 年 月 日

企業名・団体名	
連絡先ご担当者	部署名： _____ 御役職： _____ 御氏名： _____ E-mail: _____ TEL: _____ () _____
課題解決インターンシップ研修生のお受入れについて ※課題解決インターンシップは、Ⅰ（学部 3 年対象:12/2-2/10）、Ⅱ（学部 4 年対象:10/4-11/30）、Ⅲ（学部 4 年対象:12/2-2/10）の期間のうち、それぞれ 24 日間の実施を目安としています。具体的な日程につきましては、担当教員が窓口となり調整いたします。	問 1) 全ての組織のご担当者様にお尋ねします。該当する口を■の様にマークください。 令和 3 年度において、3 年次学生を対象とした「課題解決インターンシップⅠ」の研修生を、お受入れいただけますでしょうか？ ☐ 受け入れできる。 ☐ 受け入れできない。 問 2) 令和 2 年度において、3 年学生を受入いただきました組織のご担当者様に、お尋ねいたします。該当する口を■の様にマークください。 令和 3 年度においても、引き続き同学生を「課題解決インターンシップⅡおよびⅢ」で、お受入れいただけますでしょうか？ ☐ 受け入れできる。 ☐ 受け入れできない。 ※) 問 1) において、「受け入れできない。」と回答場合は、設問は以上です。ご回答ありがとうございました。 この他のご担当者様におかれましては、次頁以降にもご回答くださいますようお願い申し上げます。

担当教員の希望 ※担当教員は、貴社ご担当者様との研修テーマの調整をはじめとする貴社の窓口業務を行います。 貴社でお考えの研修テーマの分野と協創経営プログラム教員のプロフィール(別紙3 資料中に記載)を照らし合わせ、ご希望の教員氏名を御回答ください。	貴組織と種々の調整窓口となる担当教員について、ご希望をお聞かせください。該当する口を■の様にマークいただき、ご希望の教員氏名をご記入ください。 ☐ 令和2年度に担当した担当教員の継続を希望する 教員氏名： _____ ☐ 研修テーマについて、既に具体的な調整を進めている教員がいる 教員氏名： _____ ☐ その他 上記に該当しない場合は、ご希望の教員氏名をお知らせください。 ※ 第1希望： _____ 第2希望： _____ 第3希望： _____ ※) 担当教員はご希望に沿う様に割り当てたいと考えておりますが、偏りが生じた場合は、当プログラム内での調整にご一任いただけますと幸いです。
--	---

お聞かせいただきたい内容は、以上です。ご回答へのご協力、ありがとうございました。

協創経営プログラム 令和3年度 課題解決インターンシップ説明会の実施について

新潟大学工学部協創経営プログラム

教授 尾田雅文

日頃より、当プログラム活動に対し、ご理解とご支援に感謝を申し上げます。

令和3年度に実施いたします「課題解決インターンシップ」におきましては、受入組織と学生とのマッチングプロセスの改善を図ることから、従来とは多少異なる手順を踏まえることとなります。そこで、受入希望調査を行うに際し、本インターンシップの要点や手順の変更ポイントをご説明差し上げる機会を設けさせていただきます。

なお、本来ならば直接お会いして、ご説明する機会を設けるべきところではございますが、昨今の新型コロナウィルス感染症への対応のため、WEB 会議システム（ZOOM）を介して実施とさせていただきます。

1. 開催日時

2回実施いたしますが、いずれも同じ内容です。ご都合の良い回にご参加ください。なお、ご参加をご希望の方は、事前に下記 URL よりアクセスいただきまして、事前登録をお願いします。

第1回

令和3年2月22日（月） 13:30～

<https://zoom.us/join/zoom/register/tJAocOGtrjsiE9wls3jlh9UJmSs7CKpO7owj>

第2回

令和3年2月24日（水） 13:30～

<https://zoom.us/join/zoom/register/tJEqfu-tqzpjG9W0xLPg81pbdClirFgs07CA>

いずれも登録いただきますと、折り返し当日の説明会用ミーティングルームへアクセスするために必要な情報がE-mailで送信されます。

2. 内容

- (1) 課題解決インターンシップについての説明（概ね20分間程度を予定しています）
- (2) 質疑応答（皆様からの質問が無くなり次第、終了とさせていただきます。）

【お問合せ先】

新潟大学工学部工学科 協創経営プログラム 教授 尾田 雅文

Tel : 025-262-7555

E-mail : oda@ccr.niigata-u.ac.jp

R3 年度 協創経営プログラム 課題解決インターンシップ

協創経営プログラムでは、1 年次から 4 年次までの全ての学年が企業等でのインターンシップを必修科目として履修します。即ち、学内での机上学習と実際の実務体験を行き来することで、学生自らが常に自らの学習に対するリフレクション（ふり返し）を行い、知識と実務的なスキルを効果的に修得することを目指します。インターンシップ研修対象となる業種は問いません。製造業だけでなく、小売り、金融、サービス業など、全てのシゴトを対象として学生の人材育成にご協力をお願いしております。

1. 課題解決インターンシップの概要

課題解決インターンシップは、当プログラム 3, 4 年次向けのインターンシッププログラムであり、下表の様に 1, 2 年次向けのキャリアデザイン・インターンシップとは異なる目標を掲げています。

科目名称	開講年次	学外実習期間		特徴と目標
キャリアデザイン・インターンシップⅠ	1 年次 第 2 ターム	2 週×1 回		体験型（従来型）。企業体験を通して社会との接点をとらえ、社会人として求められるチカラについて考察する。かつ、今後の学習目標・目的の明確化を通じ、学習意欲の向上を図る。
キャリアデザイン・インターンシップⅡ	2 年次 第 2 ターム	2 週×2 回		短期間ずつながら多くの企業等の現場を体験することで、複眼的な視点から各組織が抱える種々の課題を探索・発見するチカラを養う。課題解決インターンシップの実施と連携し、3・4 年次学生とのノウハウ共有等を図る。
課題解決インターンシップⅠ	3 年次 第 4 ターム	6 週		PBL 型インターンシップの導入的位置付け。企業等での実習を通じて現場や社会に存在する課題を複数の視点から観察、分析し、4 年次学生の指導を受けながら具体的な課題の明確化に取り組む。
課題解決インターンシップⅡ	4 年次 第 3 ターム	6 週	計 12 週	企業等の課題解決・提案を目的とした PBL 型インターンシップ。多学年構成チームにより構成。特に後半では 3 年次学生の指導（牽引）役を務めつつ、チームワーク力、コミュニケーション力、リーダーシップ力等を含めた総合的「工学力」の習得を目標とする。
課題解決インターンシップⅢ	4 年次 第 4 ターム	6 週		

令和 3 年度の各ターム期間は以下のとおりです。併せて、研修カレンダーの例を記します。

第 1 ターム：4 月 8 日(木)～6 月 8 日(火)

第 2 ターム：6 月 10 日(木)～8 月 6 日(金)

第 3 ターム：10 月 4 日(月)～11 月 30 日(火)

第 4 ターム：12 月 2 日(木)～令和 4 年 2 月 10 日(木)



令和3年度 課題解決インターンシップⅠ研修カレンダーの例
第4ターム：12/2（木）～2/10（木）

第1週			12/1	12/2	12/3	第2週	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10
				学内学習			学内学習			インターンシップ	
第3週	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	第4週	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24
	学内学習		インターンシップ				学内学習		インターンシップ		
第5週	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	第6週	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7
	学内学習										インターンシップ
第7週	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	第8週	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21
		インターンシップ					学内学習		インターンシップ		
第9週	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	第10週	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4
	学内学習		インターンシップ				学内学習		インターンシップ		学内学習
第11週	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11		2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
	学内学習						報告会				

学内学習：16日間 インターンシップ：24日間

期間中24日間の研修日を確保した上で、具体的なインターンシップ研修日については、企業担当者、指導担当教員、学生間で調整します。



令和3年度 課題解決インターンシップⅡ研修カレンダーの例
第3ターム：10/4（月）～11/30（火）

	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
第1週	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	第2週	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15
	学内学習	インターンシップ					学内学習	インターンシップ			
第3週	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	第4週	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29
	学内学習	インターンシップ					学内学習	インターンシップ			
第5週	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	第6週	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12
	学内学習	インターンシップ		インターンシップ			学内学習	インターンシップ			
第7週	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19	第8週	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26
	学内学習	インターンシップ					学内学習		インターンシップ		
第9週	11/29	11/30	学内学習	：9日間 インターンシップ：31日間							
	学内学習	インターンシップ									

課題解決インターンシップⅡとⅢを合わせて研修先組織での48日間の研修日を確保することとします。
研修日は、企業担当者、教員、学生間で調整します。



令和3年度 課題解決インターンシップⅢ研修カレンダーの例
第4ターム：12/2（木）～2/10（木）

第1週			12/1	12/2	12/3	第2週	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10
			インターンシップ				学内学習		インターンシップ		
第3週	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	第4週	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24
	学内学習		インターンシップ				学内学習		インターンシップ		
第5週	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	第6週	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7
	学内学習		学内学習								インターンシップ
第7週	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	第8週	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21
			インターンシップ 学内学習						学内学習		
第9週	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	第10週	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4
	学内学習						学内学習				
第11週	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11		2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
	学内学習						報告会				

学内学習：23日間 インターンシップ：17日間

課題解決インターンシップⅢ成果発表日は別途調整します。

（具体的な研修日は、担当教員が改めて調整いたします。）

- 課題解決インターンシップは、企業内等の実課題に対し、観察・分析・解決に至る実務を通し、総合的「工学力」を習得するPBL型教育プログラムです。協創経営プログラムでは、「卒業研究」はなく、本インターンシップがそれに該当します。
 - 課題解決の過程で、工学のみならず各分野の技術と知識を必要とすることを理解し、それを活用できる素養を養います。
 - 併せて、「チームワーク力」や「コミュニケーション力」の習得も目指します。
- 課題解決インターンシップでは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを継続して学生の受入れをお願い致します。
- 課題解決インターンシップⅠの基本構成・コンセプト
 - 企業等における具体的な課題を発見し、座学で学ぶ論理的な思考方法や表現方法を適用することで、課題の明確化と対策方法の立案を行います。
 - 1組織で約6週間の業務を連続して体験します。
 - 受入組織のご担当者様らと共同で業務に取り組みながら、業務遂行上の課題発見に努めます。
 - 課題を論理的に考察し、例えばQFD（品質機能展開）等の手法を通じて課題解決を行えるように具体化します。
 - 「友達」とは異なる複数年次学生によるチームワークを経験し、チームワーク力とコミュニケーションスキルを身につけます。
 - 1チームの構成は、4年次の課題解決インターンシップⅢの履修学生を含めて、2～3名程度を想定します。
- 課題解決インターンシップⅡ・Ⅲの基本構成・コンセプト
 - 4年次の前半、約半年を期間に充てることで、課題解決インターンシップⅠで立案した対策方法の実践と考察・まとめといった一連のサイクルを、受入組織の担当者様らとの共同により実施します。
 - 座学で学んだ知識を、常識にとらわれない若者のセンスとともに実践に活かせる機会と場としてのインターンシップ実現を目指します。
 - 基本的に実習の場は受入れ組織内を想定しますが、文献調査、測定、分析等、大学や公設試験場の活用が適切な場合には、同組織外部での実習を適時盛り込んで頂いても構いません。
 - 期間の後半（第4ターム）は、3年次学生の課題解決インターンシップⅠと同時に実施します。
 - 第3タームは4年次学生のみチームでインターンシップに従事しますが、第4タームは3年次と4年次学生の複数年次学生の1チーム体制となり、4年次学生が3年次学生の指導者的役割を果たすことを期待しています。

- ■その他の留意事項

- 本インターンシップは、受入れ組織への学生の就職に、かならずしも直結するものではなく、学生の教育を目的に実施するため、受け入れた学生が受入れ組織に就職することを必須とはしていません。学生にお声がけ下さることは構いませんが、この点については十分にご理解下さい。
- 受入れのご了承をいただいた組織が、必ず毎年度、学生の実習先となるわけではありません。インターンシップの受入れをご了承頂いたとしても、学生らの「通勤」や種々の事情により、必ず実習先となるわけではないことをご理解下さい。
- インターンシップの実施にあたり、本学教員と受入組織の皆様とでテーマ内容や研修日等を事前に相談・調整可能な期間を設けます。
- 学生は受入れ組織の一員としてお考え下さい。勤務に要する通勤費や宿泊費に対して、可能な限り受入れ組織でのご負担をご検討下さい。（賃金は不要）
- 設備の破損などにつきましては、受入れ組織の方と同等の扱いをお願いします。
- 研修終了後、勤務状況、態度等についてのアンケートへのご協力をお願いいたします。

2. 実施方法の改善

令和3年度における課題解決インターンシップでは、以下の事柄について実施方法の改善に取り組みます。

- ・ 従来、インターンシップのテーマの検討については、受入れ組織の皆様に対し、大変なご負担になっていたものと推察いたします。令和3年度からは、当プログラム教員が積極的にテーマや実施方法の検討に携わる事ができる環境を構築するため、受入組織の窓口となります担当教員を早期に決定します。
- ・ 従来、研修生受入れのご意向をお知らせいただきました組織の皆様に対し、学生が割り当てられないケースが散見しておりました。令和3年度においては、これを軽減するために、受入組織と学生のマッチングのプロセスの手順を入れ替えます。
 - 従前：受入組織と学生のマッチングを一元的に図った後、担当教員を決定
 - 令和3年度：受入組織と担当教員を決定の後、同教員も交えて学生と受入組織とのマッチングを実施
- ・ これらの改善を考慮したマッチング作業を含む課題解決インターンシップのプロセスを記します。

受入アンケート（発送2月、締切3月末）

- ・ 調査内容
- ・ 受入の可否（可 or 否）と窓口となる担当教員の調査

担当教員の調整（4月）

- ・ 受入可能と回答した組織に対し、プログラム教員より担当者を割り当てる。
- ・ 「担当継続を希望」「既に相談を開始」と回答のあった組織には、当該教員を優先する。
- ・ その他、組織からの要望の順位を勘案して、担当教員を決定する。
- ・ 上記の結果、一教員当りの担当組織数に偏りのある場合は調整する。
- ・ 受入可と回答した組織に対し、上記、担当教員名を回答する。

担当教員と受入組織の調整（4～5月）

- ・ 担当教員と受入組織担当者間で、「受入組織において解決を要する課題」より、研修テーマを選定する。さらに、解決に至るプロセスの検討についても、可能な限り調整を進める。
- ・ 受入条件（勤務日、勤務時間、通勤手段・方法、通勤等の費用負担、通勤時の服装、昼食の手配の方法等）について、意見交換し調整する。
- ・ これらの調整結果を学生マッチング用の受入れ組織リストに記載する。

学生マッチング（6月～7月）

- ・ 学生マッチング用受入組織リストを学生（履修予定者）に提示する。
- ・ 指導担当教員名、受入組織名（所在地）、研修テーマ、勤務日、勤務時間、通勤手段・方法、通勤等の費用負担、通勤時の服装、昼食の手配の方法
- ・ 課題解決インターンシップⅠと異なる組織でⅡ・Ⅲでのインターンシップを行う4年次学生も対象とする。
- ・ 学生の希望に基づいて、指導担当教員に割り当てるが、担当学生数に偏りが生じた場合は調整する。
- ・ 指導担当教員は、担当する企業（テーマ）の中から、担当する学生の研修先を調整する。
- ・ 履修する学生の研修先組織の決定

実施環境整備（～11月）

- ・ 指導担当教員は、担当する学生、担当組織の双方を調整し、課題解決インターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲにおける取り組む研修内容について、検討を進める。
- ・ 上記検討結果に基づいて、条件確認書をはじめとする書類を作成し、取り交わす。

課題解決インターンシップⅠの実施（12月～2月）

実施環境の再整備（～翌年度9月）

- ・ 継続受入可否の確認（4～5月：受入れ否の場合は、3年次学生に合流してマッチング実施）
- ・ 研修テーマの再確認
- ・ 取り交わし文書の確認（必要な文書の取り交わし）

課題解決インターンシップⅡ・Ⅲの実施（翌年度10月～2月）

3. 令和3年度 課題解決インターンシップ担当教員プロフィール



プログラム長 准教授

小浦方 格

研究分野・テーマ: 機械設計 産学連携 地域イノベーション 中小企業

地域産業振興や産学連携実務に即した実証研究を行っています。また企業で生産設備設計、生産技術、品質マネジメントに従事した経験を基に、企業の生産活動に関する諸問題に共同で取り組みたいです。

mail: kourakata[AT]ccr
TEL: 7693 (工学部棟A-218)
O/H: 火曜1・2限 (第3・4ターム)

研究者総覧 URL http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/485_ja.html



副プログラム長 4学年担当 教授

尾田 雅文

研究分野・テーマ: 医用システム 生体医工学・生体材料学

有限要素法(FEM)等による力学解析や超音波工学, メカトロニクス分野の知識を生かし, 医用インプラントの評価や医療・福祉分野の機器開発の経験を有しています。

mail: oda[AT]ccr
TEL: 7555 (産学共同研究棟1号棟105室)
O/H: 木曜3限 (第3・4ターム)

研究者総覧 URL http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/954_ja.html



教授

増田 淳

研究分野・テーマ: 太陽光発電 電子材料

太陽電池や薄膜電子材料に関する研究を行っています。特に産官学でのプロジェクト研究やコンソーシアム研究での経験が豊富で、産業界での実用化を目指すとともに、研究の根幹となる基礎的な知見の習得や学術的な発見も大事にしていきたいと考えています。

mail: a-masuda[AT]eng
TEL: 7381 (自然科学研究科管理共通棟313-1)
O/H: 月曜5限 (第3・4ターム)

研究者総覧 URL http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/200001980_ja.html



准教授

白川 展之

研究分野・テーマ: 経営学 高等教育学 社会システム工学 技術経営 地域連携貢献 政策科学 計量情報学・科学計量学

国・地方の公務員、社会的起業家の経験を持つ実務家教員です。産学官のセクターを超えて地域産学官連携や社会イノベーションの実践をしてきました。従来の専門の縦割りに従うと説明が難しいのですが、科学技術のみに限らないソーシャルな側面も重視しながらイノベーション論について文理融合で学際的に研究し、国内外に向け成果を発信しています。

mail: shirakawa[AT]eng

TEL: 7287 (人文社会科学系棟C-363)

O/H: 月曜3/4限 (第3・4ターム)

研究者総覧 URL http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/200002174_ja.html

3学年担当 准教授

長尾 雅信

研究分野・テーマ: 地域ブランディング 関係性マーケティング CSV (creating shared value)

10年以上、社会人大学院 (MOT)にてマーケティングを教授してきました。ブランディングをテーマに県内外の企業、自治体、研究者と共同研究を行っています。SDGsに係る研究や社会連携にも力を入れています。

mail: nagao[AT]eng

TEL: 6342 (人文社会科学系棟C-354) / 7287 (プログラム事務室)

O/H: 水曜5限 (第3・4ターム)

研究者総覧 URL http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/100000042_ja.html

1学年担当 准教授

東瀬 朗

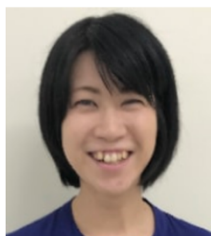
研究分野・テーマ: システム工学 安全工学 経営戦略 デザイン工学

「経営管理の改善」「安全管理の改善」「デザイン思考による新商品／サービス開発プロセスの改善」を研究及び教育の3本柱として取り組んでいます。企業との共同・受託研究や各社での講演も多数行っています。

mail: tose[AT]eng

TEL: 7918 (工学部B-307)

O/H: 金曜5限 (第3・4ターム)

研究者総覧 URL http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/200000904_ja.html

助教

若林 悦子

研究分野・テーマ: 社会システム工学・安全システム 地域産業

燕市のインターンシップ窓口である「公益社団法人つばめいと」で事務局長を務めています。企業にとっても、学生にとっても効果の高いインターンシップを目指し、サポートさせていただきます。

mail: etsukow[AT]eng

TEL: 7287 (プログラム事務室)

O/H: 木曜3-4限 (第3・4ターム)

研究者総覧 URL http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/200001307_ja.html

4. 受入組織の皆様にとってのメリット

課題解決インターンシップの研修生をお引き受け頂くことにより、受入れ組織の皆様らにとっては以下のようなメリットが考えられます。

- 学生が企業の存在を知ること、将来の就職の選択肢となることが考えられます。
- 学生同士の口コミにより、研修した当人以外の学生に対する認知度向上が期待されます。
- 長期的には、Uターン就職の可能性が高まることが期待されます。
- 若い学生を指導することで、自社の新入社員研修などにフィードバックできます。特に若手従業員が自分自身の仕事を見つめ直し、就業意欲が向上することが期待できます。
- 学生から新鮮かつ多様な視点や考え方を引き出すことで、新規事業の開発や既存事業の改善などに、好影響が発生することが期待されます。
- 得られた成果については、企業でご活用いただけます。
 - 十分な期間にじっくりと実習に取り組むことができます。従って、普段はなかなか着手が困難な企業内の課題に対し、企業様のご担当者らのご指導の下で学生と取り組むことが出来ます。
 - 指導担当教員が各研修生につきますので、教員の知識も活用可能です。
 - インターンシップをきっかけに、共同研究プロジェクト等の産学共同事業に発展させることも可能です。